

「スタンダードテキスト 腹腔鏡下外科手術」 Surgical Laparoscopy

Karl A. Zucker 著

東京大学教授・第2外科

出 月 康 夫

監訳

東京大学講師・第2外科

万 代 恭 嗣

九州大学医学部教授・第2外科

杉 町 圭 藏

1990年わが国において、初めて腹腔鏡下胆嚢摘出術が開始されてから既に3年が経過した。腹腔鏡下外科手術は従来の手術に比べ、侵襲が非常に少なく、術後疼痛も軽く、早期社会復帰が可能であり、患者に歓迎される治療法である。世界中そうであるように、本邦においても腹腔鏡下胆嚢摘出術は爆発的に普及し、現在では数百の施設で施行されている。また同時にこの腹腔鏡下外科手術は、胆嚢摘出術以外にも広くその適応が拡大され、虫垂切除術、鼠径ヘルニア手術、腸管切除術などが実際に行われている。この腹腔鏡下外科手術の普及は、外科学の大きな進歩を成すものと期待している。

一般外科医が腹腔鏡下外科手術を開始するに当たっては、外科的解剖に習熟していることはもちろんのこと、腹腔鏡の操作や2次元テレビモニター上の触知感覚の習得など、適切なトレーニングを必要とする。経験豊かな指導医のもとでトレーニングを受けることが推奨されるが、現

状では必ずしも可能とは言い難く、原理から応用までを網羅した専門書の出版が待ち望まれてきた。

本書「スタンダード・テキスト 腹腔鏡下外科手術」は、腹腔鏡下外科手術の本格的なテキストとして最初のものであり、腹腔鏡下外科手術の原理と共に、より新しい手技やこれまでに開発された機器類についても詳細に紹介している。歴史や原理についても、本書を読破することで容易に理解できる。また気腹法については、小切開による腹腔鏡挿入手技が紹介されている。これは術後で癒着などが予想される症例では大変有用であり、マスターしておきたい手技の1つである。腹腔鏡下胆嚢摘出術については、電気メス法とレーザー法が別章に分けられており、レーザー法の利点欠点について理解できる。そのほか、虫垂切除術、迷走神経切離術、鼠径ヘルニア手術、腸管切除術など、最新の手術術式が網羅されており、実際の手術において非常に参考になるものと思われる。

以上の多くの情報が、豊富なカラー写真とイラストで解説されており、読者の理解を助けてくれるものと考ええる。

著者のZucker先生は、SAGES (The Society of American Gastrointestinal Endoscopic Surgeons)の主要なメンバーで、世界の最先端で活躍されている腹腔鏡下外科手術の第一人者である。そのため、本書は実際の臨床ですぐに役立つ情報が、詳細に述べられている。また、訳者の出月先生、万代先生は、日本の第一線で実際に活躍されている先生方で、Zucker先生の伝えたい部分を見事に完訳なさっている。

本書は、これから腹腔鏡下外科手術を開始しようとする一般外科医のみならず、内視鏡下外科手術に現在携わる医師のバイブルとして、是非お勧めしたい本である。

● B5 328頁 図88 写真83
原色図79 1993 定価18,540円
(税込) 円400

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)